

平成 27 年度 木育マイスター育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

● 事業概要	2
● 事業スケジュール	3
● プログラムの作成	
プログラム作成	4
研修日程の設定	4
現地情報の収集	5
受講生の募集と選定方法	5
● 研修会の実施	
第 1 回	6
第 2 回	8
● O J T の実施	10
● まとめ	16
● 添付資料	17
①広報チラシ	
②OJT 自己評価シート	
③アンケート集計	



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

釧路・根室地域を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月下旬）と後半（11月上旬）の2回行った。OJTは、10月から11月上旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成27年度の第6期生として23名の木育マイスターが誕生することとなる。

・本事業における業務

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて、研修会を行う。

3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。



●事業スケジュール

■事業スケジュール

前年までの講座の反省点を踏まえながら、よりよい研修にするよう講師陣の意見も取り入れて、カリキュラムの詳細を再検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

5月下旬～7月上旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月15日	受講生募集の広報開始
8月21日	応募締切・選定
7月上旬～9月中旬	第1回講座関係団体と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月27日-28日	第1回講座
9月中旬～11月上旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
10月3日	OJT第1回目実施
11月7日	OJT最終回実施
11月8日-9日	第2回講座



●プログラムの作成

■プログラム作成

テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2015/9/27(日)～28(月)

【9/27】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00		開会式				霧多布 湿原 センター
10:30～ 11:30	5章1	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1H	
11:30		昼食				
12:30～ 15:00	1章	木育の理念	煙山 泰子	木育が生まれた背景と 現在の位置づけ	2.5H	
15:00～ 17:00	4章	木と生きる ～人の成長と木の関係～	宮本 英樹	子供の発達の特性と 過程、人を癒す木の働き	2H	

【9/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	2章	木とふれあい、木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴 木材の構造と性質	2.5H	霧多布 湿原 センター
11:30		昼食				
12:30～ 14:00	2章	木とふれあい、木に学ぶ	阪野 真人	森林ボランティアの今、 霧多布の特徴、取り組み	1.5H	
14:00～ 16:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	阪野 真人 宮本 英樹	枝打ち体験、 トドマツ林利用計画	2.5H	

◆第2回目 2015/11/8(日)～9(月)

【11/8】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 12:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.5H	釧路市 山花温泉 リフレ
12:30		昼食				
13:30～ 15:30	5章 2-3	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	伝える技術	2H	
15:30～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りで 大切にしたいこと	1.5H	

【11/9】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 12:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	丸善木材(株) 釧路工業 技術センター	林業・木材産業の今	3.5H	丸善木材(株) 釧路工業 技術 センター
12:30		昼食				釧路市
13:30～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎、 模擬演習	3.5H	山花温泉 リフレ

■現地情報の収集

現地情報の収集は当法人のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～26年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。第1回の研修会場である霧多布では霧多布湿原センターにご協力いただき、研修会場や周囲の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修の前日に下見を行った。第2回の研修会場である釧路市山花温泉リフレでは、研修会場や周辺の森について、釧路市産業推進室にご協力いただき、打合せを行い、研修内容を決定した。

下見の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と当法人のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「木育ファミリーメーリングリスト」や「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。定員20名に対して57名の応募があり、急遽定員を増やし、抽選により23名の受講生を決定した。

●研修会の実施

■第1回目 平成27年9月27日-9月28日

◆1日目(9/27) 霧多布湿原センター 受講者数:23名

10:15 開会式

10:30 体験学習の理解

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

アイスブレイクを行い、受講生が受講しやすい雰囲気を作ったあと、受講生が持参した木の思い出の品を使って、受講生それぞれが自己紹介を行った。

体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にものを伝えるための手法を学んだ。



12:00 昼食

12:45 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マ이스ターの目指すものについて学んだ。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例を紹介し、木育の幅広さを認識した。

また、木のマグネットづくりを行い針葉樹と広葉樹の違い、加工のしやすさなどを体感した。実際に木に触れて、木育のアクティビティを「体験学習」した。



15:25 木と生きる～人の成長と木の関係～

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

「子どもの発達の特徴と過程」について、子どもたちの発達を促すために多様な自然の中で育つことの大切さについての話があった。

参考文献として、林野庁「もりのなかでこどもはかがやく」などを挙げ、木育と、子どもたちの発達段階についての関係について学んだ。



17:00 終了

◆2日目 (9/28) 霧多布湿原センター 受講者数：22名

9:20 木とふれあい、木に学ぶ

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

北海道の森林の特徴として、針広混交林や湿性林、適潤林についての説明があった。また、原生林、人工林、二次林、天然林の違いについても学んだ。

北海道にもともとある樹種についてゲーム形式で学び、その後屋外で、実際に湿性林の姿を見た。

最後に、北海道在来の8種類の木（ハルニレ、イタヤカエデ、トドマツ、ダケカンバ、シラカンバ、イチイ、カツラ、ハリギリ、サクラ）について説明があり、今後受講生が木育マイスターとして活動していくのに必要な知識の、基礎を学んだ。



11:35 昼食

12:30 木とふれあい、木に学ぶ

(霧多布湿原センター 阪野真人)

今回の研修会場である霧多布湿原の特徴や、湿原を守るための取り組みなどについて学んだ。

その後、霧多布湿原センターについての説明があり、実際に館内をまわって、センターで行われている活動や、取り組みについて学んだ。



14:00 木と生きる～暮らしと産業～

(霧多布湿原センター 阪野真人)

(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

野外に出てトドマツ林の枝打ち体験を行い、枝打ちを行うことで森がどう変わるのかを実体験した。

造林・更新・人工造林・天然下種更新・萌芽更新について説明を受けた。

その後、受講生を4つの班に分け、今後のトドマツ林について50年間の利用計画をグループワークで考え、班ごとに発表した。



17:00 終了

■第2回目 平成 27 年 11 月 8 日-11 月 9 日

◆1 日目 (11/8) 釧路市山花温泉リフレ 受講者数：22 名

10:15 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどういう存在かについて説明があり、木育マイスターとしての自覚を持つことの重要性について、再認識した。

また、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。昔から、木の道具を作る際、材料となる木が材質によって使い分けられてきたことを学んだ。



11:30 昼食

12:30 木育はつながりのキーワード～プログラムの伝え方～ (NPO 法人ねおす 宮本英樹)

より効果的な伝え方や指導法を学ぶための講義を受けた。受講生一人一人のOJTの体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

各自が受講したOJTで、各アクティビティが何を目的として提供されているのか、全体のプログラムの流れはどのように考えられているのかなどを、プログラムを効果的に伝えるために必要なものを例示しながらふりかえりを行い、様々な伝える手法を学んだ。

また、ネイチャーゲームやトランプなどを使ったアクティビティを通して、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの間にある、「間(ま)」の重要性など、伝える技術を学んだ。



17:30 終了



◆2日目(11/9) 釧路市山花温泉リフレ 受講者数:21名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～(丸善木材株式会社)

森の木が木材になる過程を理解するために、釧路町の丸善木材株式会社で、切り出した丸太の皮をむき、板にしていく製材の現場を見学した。

丸善木材では大きな製材所を別に持っているが、今回見学した工場は昔ながらの機械と、人の手による製材が行われており、製材の過程がよくわかった。

案内は木育マイスター一期生の鈴木氏にお願いし、丸善木材で実施している小学生の工場見学プログラムと同じ手法で案内していただいたため、わかりやすく伝える技術についても学ぶ事ができた。



10:40 木と生きる～暮らしと産業～

(釧路工業技術センター)

製材された材が、加工される際に利用される道具、設備などを見学するため、釧路市工業技術センターに伺った。

センターの活動についての説明を受けた後、実際に機器・設備を見学した。レーザー加工の機械では、今回の受講生の名札を作っていた。普段なかなか見る事のない最先端の技術を見学し、現在の加工技術について学んだ。



12:30 昼食

13:30 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～(NPO 法人ねおす 宮本英樹)

工場見学の移動のバスの中で、プレゼントを渡すことになぞらえて、木育プログラム作りの基礎(資源調査、対象者分析、コンセプトづくり)を学んだ。

その後、受講生自身が現在行っている活動等に関連して、取り組みたいテーマを提案してもらい、そのテーマについてグループワークにより3つのプログラムの企画・発表をした。

最後は各自の「木育宣言」をひとりひとりが読み上げ、全4日間の研修のまとめとした。



17:00 終了

●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、十勝地域、道東地域、道南地域）で計20個のOJTを設定し、そのうち15個のOJTに参加があった。OJT実施に当たっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に活かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
1	9/30(水)～ 10/3(土)	ねおす	札幌市中央区 (円山公園)	子ども対象のプレーパークで、木育プログラムの補助をする	1
2	10/4(日)	ねおす	札幌市中央区 (旭山記念公園)	未就学児の親子対象の木育プログラムの補助をする	0
3	10/12 (月・祝)	ねおす	札幌市中央区 (旭山記念公園)	「旭山森のフェスティバル」で、子ども・大人向けの木育プログラムの補助をする	1
4	毎週 火・木曜日	ねおす	札幌市中央区 (円山動物園)	小学生のアフタースクールで木育プログラムの補助をする	4
5	毎週水曜日	いぶり自然学校	苫小牧市 (ひかりの国幼稚園)	苫小牧市内の幼稚園で木育プログラムの補助をする	1
6	10/4(日)	木育マスター (木村、山田)	和寒町 (三笠山自然公園)	「わっさむ森づくりフェスタ」で木育プログラムの補助をする	0
7	10/11(日)	木育マスター (山田)	旭川市 (旭川大雪アリーナ)	「コープさっぽろたべるたいせつフェスティバル」で、木育プログラムの補助をする	0
8	10/8(木)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐく一む)	小学生を対象とした、木育プログラムの補助をする	1
9	10/18(日)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐく一む)	「はぐく一む秋まつり」で、木育体験プログラムの補助をする	1
10	11/1(日)	木育マスター (日月)	帯広市(帯広の森・ はぐく一む)	子ども～大人対象の木育プログラム(森づくりなど)の補助をする	1
11	10/4(日)	木育マスター (萩原)	弟子屈町	小学生以下の親子対象の木育プログラムの補助をする	1

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数 (延べ 人数)
12	10/10(土)	木育マスター (萩原)	弟子屈町	小学生対象の木育プログラムの補助をする	3
13	10/24(土) ～25(日)	木育マスター (萩原)	弟子屈町(屈斜路 プリンスホテル)	「セラピーフェスティバル in 屈斜路プリンスホテル」で木育プログラムの補助をする	0
14	10/31(土)	釧路市農林課	釧路市(釧路市 こども遊学館)	「第 6 回くしろ安心住まいフェア」で、木育プログラムの補助をする	2
15	11/7(土)	木育マスター (萩原)	標茶町 (旧中虹別小学校)	子ども～大人対象の木育プログラムの補助をする	4
16	11/7(土)	木育マスター (鈴木憲)	釧路市(イオン モール釧路昭和)	イオンの「木育・森づくりフェア」で、木育プログラムの補助をする	2
17	10/4(日)	木育マスター 道南支部	七飯町(大沼ふるさと の森自然学校)	木育マスターが主宰する木育イベント「木育フェスタ」の企画・運営の補助をする	5
18	10/6(火)	木育マスター (鈴木正)	奥尻町	小学生対象の木育プログラムの補助をする	0
19	10/14(水)	木育マスター (鈴木正)	森町 (株式会社ハルキ)	幼稚園児を対象とした工場見学プログラムの補助をする	4
20	11/10(火)	木育マスター (鈴木正)	松前町 (松前中学校)	中学生対象の木育プログラムで補助をする	0

1. 10/3 (土) 12:30～17:30

講師：NPO 法人ねおす 富田桂太

場所：札幌市円山公園

参加者：子ども 15 名、大人 4 名

OJT 受講者：鈴木雅彦

内容：子ども対象のプログラム
(プレーパーク)



3. 10/12 (月・祝) 10:00~16:00

講師：NPO 法人ねおす 高野克也
場所：札幌市 旭山記念公園
参加者：子ども約 70 名・大人約 30 名
OJT 受講者：横田博
内容：子ども～大人対象のプログラム
(森の中でのハンモック体験など)



4. 毎週火・木曜日 (10/6、10/13、10/20、10/29)

14:00~18:00

講師：NPO 法人ねおす 高野克也、富田桂太
場所：札幌市 円山動物園
参加者：子ども約 8 名
OJT 受講者：兼沢和治、槌本陽、松浦裕一郎、
宮川多恵
内容：子ども対象のプログラム
(アフタースクールでの木育
プログラム)



5. 毎週水曜日 (10/21) 9:00~12:00

講師：NPO 法人いぶり自然学校
場所：苫小牧市 ひかりの国幼稚園
参加者：子ども約 20 名
OJT 受講者：槌本陽
内容：幼稚園児対象のプログラム
(もりのようちえん)



8. 10/8 (木) 9:30~12:00

講師：木育マイスター 日月伸
場所：帯広市 帯広の森・はぐく一む
参加者：子ども 69 名
OJT 受講者：伊藤典子
内容：小学生対象のプログラム
(びゅんびゅんごま作りほか)



9. 10/18 (日) 10:00~15:00

講 師：木育マイスター 日月伸
場 所：帯広市 帯広の森はぐく一む
参 加 者：子ども、大人合わせて約 600 名
OJT 受 講 者：若槻義近
内 容：子ども～大人対象のプログラム
(びゅんびゅんごま作り)



10. 11/1 (日) 9:00~15:00

講 師：木育マイスター 日月伸
場 所：帯広市 帯広の森はぐく一む
参 加 者：子ども 8 名、大人 6 名
OJT 受 講 者：鴫田千恵子
内 容：子ども～大人対象のプログラム
(森づくり)



11. 10/4 (日) 8:30~16:30

講 師：木育マイスター 萩原寛暢
場 所：弟子屈町 てしかが自然学校
参 加 者：子ども 10 名、大人 7 名
OJT 受 講 者：柴田真由子
内 容：小学生以下の親子対象のプログラム
(樹皮や葉っぱのこすり絵体験)



12. 10/10 (土) 8:15~15:30

講 師：木育マイスター 萩原寛暢
場 所：弟子屈町 林業多目的センター
参 加 者：子ども 13 名
OJT 受 講 者：石川聖江、酒巻美子、水口郁恵
内 容：小学生対象のプログラム
(たき火おやつ、草木染ほか)



14. 10/31 (土) 9:00~16:30

講 師：釧路市産業推進室
場 所：釧路市 釧路市子ども遊学館
参 加 者：子ども、大人合わせて96名
OJT 受 講 者：塚本久仁佳、阪野真人
内 容：子ども～大人対象のプログラム
(木育教室)



15. 11/7 (土) 10:00~16:00

講 師：木育マイスター 萩原寛暢
場 所：標茶町 旧中虹別小学校
参 加 者：子ども、大人合わせて23名
OJT 受 講 者：安保翔太、伊藤典子、酒巻美子、
鵜田千恵子
内 容：子ども～大人対象のプログラム
(マシュマロ焼き、削り馬、薪割り)



16. 11/7 (土) 9:30~12:00

講 師：木育マイスター 鈴木憲太郎
場 所：釧路市 イオンモール釧路昭和
参 加 者：子ども14名、大人14名
OJT 受 講 者：塚本久仁佳、中井咲絵
内 容：小学生対象のプログラム
(木育講座、ミニチュアチェア作り)



17. 10/4 (日) 8:30~17:00

講 師：木育マイスター 道南支部
場 所：七飯町 流山温泉
参 加 者：子ども約900名、大人約300名
OJT 受 講 者：加藤京子、齊藤香里、早坂健二、
福地晴美、藤井雅人
内 容：子ども～大人対象のプログラム
(道南木育フェスタ)



19. 10/14 (水) 9:45~11:15

講 師：木育マイスター 鈴木正樹

場 所：森町 株式会社ハルキ

参 加 者：子ども 10名、大人 2名

OJT 受 講 者：加藤京子、川畑雄二、早坂健二、
福地晴美

内 容：幼稚園児対象のプログラム
(工場見学、木のスプーン作り)



●まとめ

・受講人数について

平成 27 年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、3 倍近い 57 名の申し込みがあったため、急遽定員を 3 名増やし、抽選で 23 名に絞り受講者を決定した。すべてのカリキュラムに参加できなかった人もいたが、補講やレポート提出で対応し、全員の受講生が研修カリキュラムを修了した。

・会場について

今年度は、釧路・根室地域の、浜中町と釧路市で実施した。遠方からの参加者も多かったため、宿泊される方が多かった。第 1 回研修では交流会がなかったためか、事務局が案内した宿と別宿に宿泊される方もいて、「やはり同じ宿にすればよかった」という声もアンケートにあったので、次回はなるべく同じ宿に泊まって頂けるよう、案内を工夫する必要がある。

・研修時期について

講座は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 11 月）に実施した。OJT は 1 回目と 2 回目の間（10 月～11 月上旬）に行うことを基本とし、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。ただ、木育マイスターにとって不可欠な、「森林と木材がメビウスの輪のような関係である」という概念を理解してもらえよう、様々な分野の講義・実習・見学を盛り込んでいるため、一つ一つの分野にかける時間がどうしても短くなり、講義時間が「短かった」と回答した人も多かった。日程を増やしてもいいという声もあった。

・今後の木育について

平成 22 年度から実施されている本研修であるが、22 年～26 年で、合計 153 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 23 名のマイスターがそれに加わり、合計 176 名となる。木育マイスター 1～5 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となっていたいたり、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。

今後、さらに北海道の木育の普及を推進していくためには、この 6 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。また、木育マイスターのフォローアップも重要である。

今年度の研修では定員の 3 倍近くの申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。北海道の木育を進めていくためにも、本研修は継続して行われる必要があると考える。